

改めて、大震災とは何か

櫻井 紘里

2024年1月1日16時10分、能登半島地震が発生した。お正月を東京の自宅で過ごしていた私は、突然の揺れに驚いてスマホを握って玄関を飛び出した。近くの電柱がゆらゆらと揺れていたが大きな被害にはならなかった。たちまちお正月気分が吹き飛んでしまい、気の抜けたテレビ番組は地震と津波のニュースに変わってしまった。

それから毎日ニュースやSNSなどで能登半島地震の情報を追っているが、いまいちよくわからない。大変な出来事が起きたのにお正月気分が漂っているし、大きな地震だったのに被害の全容が未だにわからないし、ボランティアに行っていいのか悪いのか。「能登には来ないで」と言われているが「避難所は人手不足」、「能登を忘れないで」というニュースを見ると一体どうすればいいのか…。もやもやした気持ちのまま1か月が過ぎてしまった。こんなに「なんだかよくわからない」地震が今まであったんだろうか。

東京にいるとぼんやりして見えるが、被災者一人一人の体験談を読むと、確かに生々しい悲劇が起きている。規模は小さいかもしれないが、東日本大震災や阪神大震災、関東大震災の体験と通じるところがあるよう感じた。大切な人を失う悲しみに地震の大きさは関係ない。そう思った時、ふと「能登半島地震はなぜ大震災ではないのか」という疑問が浮かんだ。調べてみると能登半島地震も東日本大震災も阪神・淡路大震災も同じ最大震度7だった。ではどうして能登半島地震は大震災ではないのか。ニュースを見ていると「多分大震災ではないのだろうなあ」という感じがするが、改めてなぜか聞かれるとうまく答えられない。「地震」と「大震災」の境目は一体どこにあるのか。「なんだかよくわからない」地震をはっきりさせるために、私はリサーチを開始した。

1.「地震の名称」と「災害の名称」

日本では「地震の名称」と「災害の名称」を別の機関が定めている。一つは気象庁が定める「地震の名称」だ。気象庁は、「顕著な災害を起こした自然現象」について名称を定めることとしている。¹⁾「地震の名称」を定める基準、付け方は以下のとおりとなっている。²⁾

ア 名称を定める基準

(ア) 地震の規模が大きい場合

陸域: M7.0以上(深さ100km以浅)かつ最大震度5強以上

海域: M7.5以上(深さ100km以浅)であり、かつ最大震度5強以上または津波の高さ2m以上

(イ)顕著な被害が発生した場合(全壊家屋100棟程度以上の家屋被害、相当の人的被害など)

(ウ)群発地震で被害が大きかった場合等

イ 名称の付け方

原則として、「元号年+地震情報に用いる地域名+地震」とします。

なお、定めた名称は、一連の地震活動全体を指します。また、アの基準を満たす地震が複数発生した場合には、原則として一連の地震活動が始まった時点の元号年を用います。

名称を定める基準を満たした場合、できるだけ速やかに名称を定めるとしている。実際に令和6年能登半島地震の名称は地震発生から約2時間後³⁾に記者会見で発表された。事前に名称を定める基準が明確に決まっているため、速く発表できるのだろう。

もう一つは政府が閣議で決定する「災害の名称」だ。気象庁が「自然現象」に名称を付けるのに対し、政府が決める「災害」は「地震によって引き起こされた災害」を指す。⁴⁾閣議とは、内閣の意思を決めるために開かれる会議のことで、内閣総理大臣とその他の国務大臣で構成される。⁵⁾

日本で最初に閣議決定した震災の名称は「阪神・淡路大震災」だ。政府は「今回の災害の規模が特に大きいことに加え、今後の復旧・復興施策を推進する上で統一的な名称が必要となると考えられたことから、災害名を「阪神・淡路大震災」と呼称する」として平成7年2月14日に閣議口頭了解した。⁶⁾地震発生から4週間後の決定だった。

二度目に閣議決定した震災の名称は「東日本大震災」だ。政府は「福島第一原発事故を含め当地震によってもたらされた一連の災害(震災)を指す名称を「東日本大震災」とする」ことを持ち回り閣議で了承し、当時の内閣総理大臣の菅直人が記者会見で発表した。⁷⁾地震発生から3週間後に決定した。

これまで閣議決定された災害名は「東日本大震災」と「阪神・淡路大震災」の二つのみである。「関東大震災」は誰が付けた名称なのかわかつておらず、⁸⁾正式な地震の名称は「関東

大地震」という。⁹⁾また閣議決定される災害名は、気象庁のように名称を定める基準は決まっていない。

2.マスメディアによる命名

正式な名称を定めるのは「政府」と「気象庁」だが、一番最初に災害に名称を付けるのはマスメディアだ。正式な名称が決まるより先に災害を報道しなくてはならないからだ。この時、各メディアが独自の名称を付けて報道するため、地震が発生した直後は一つの災害に対して多くの名称がついている状態になる。過去にどのような名称が付けられたのだろうか。まず「阪神・淡路大震災」のマスメディアが付けた名称を調べた。

マスメディアが発案した「阪神・淡路大震災」の名称

名称	使用したメディア
阪神大震災	毎日新聞、読売新聞、読売テレビ、毎日放送テレビ、関西テレビ、朝日新聞、産経新聞、日本経済新聞、朝日放送テレビ、NHK、神戸新聞、共同通信、週刊文春
関西大震災	週刊現代(2月4日号)、サンデー毎日(2月5日号)、週刊朝日(2月3日号)、アサヒグラフ(2月1日号)、AERA(1月30日号、2月5日号緊急増刊、2月13日号、2月25日号臨時増刊、3月25日号臨時増刊など)、諸君!(3月号、4月号)、日刊スポーツ
神戸大震災	東京新聞(1月23日付夕刊まで)、週刊読売(2月5日号)、産経新聞緊急増刊(『産経新聞』『週刊Gallop』『サンケイスポーツ』1月27日号)
神戸地震	週刊新潮(2月2日号)

10)

「毎日新聞」は地震発生当日の午後3時ごろに「阪神大震災」を発案し、1995年1月18日付朝刊以後、同紙上で使用した。テレビでは「読売テレビ」が地震発生当日から一部の番組で「阪神大震災」を使い始めた。他に「関西大震災」、「神戸大震災」、「神戸地震」などが使われたが、徐々に「阪神大震災」に統一されていった。¹⁰⁾

しかしこの流れは淡路島の住民には不評だった。「阪神大震災」は神戸・阪神地区だけが大きな被害を受けたような名称で、同様の被害を受けた淡路島北部のことが考慮されていないように見えるからだ。当時の淡路島津名町長、柏木和三郎は「どこで起きた地震かと、他人事のような気がする」「マスコミに厳重に抗議したいが、忙しくてそれどころではない」と話している。当時の北淡町長、小久保正雄も「阪神・淡路大震災」の名称を提案していた。¹¹⁾「毎日新聞」にも淡路島の読者から「なぜ淡路を入れないのか」という苦情が寄せられた。¹²⁾

政府が「阪神・淡路大震災」という名称を決めたのは、このような議論が起きた後のことだつた。恐らく閣僚が一から考えた名称ではなく、マスメディアや被災者が考えた名称の中から適

切なものを選んだのではないか。続いてマスメディアが発案した「東日本大震災」の名称を調べた。

マスメディアが発案した「東日本大震災」の名称

名称	使用したメディア
東日本大震災	朝日新聞、時事通信社、ウェザーニュース、共同通信社、共同通信の配信加盟社並びに配信契約社(産経新聞、東京新聞、中日新聞、毎日新聞、日本経済新聞(3月19日朝刊から))、フジテレビ、TBS、テレビ朝日、日本テレビ(3月25日から)、テレビ東京、TOKYO FM、BS11デジタル
東北関東大震災	NHK、中央共同募金会
3.11大震災	河北新報(「東日本大震災」と併用で3月14日から)
東北沖大地震	毎日新聞が地震当日から3月14日まで使用
東北・関東大地震	共同通信社、東京新聞など加盟社
宮城・茨城沖大地震	日テレNEWS24が地震当日から3月12日まで使用
東日本巨大地震	テレビ朝日(地震発生直後から暫定的に使用)、『読売新聞』(ヤマト運輸CM)
東日本大地震	日本テレビが地震当日から3月24日まで使用。TOKYO FM、BS11デジタル
東北大震災	その他の一部メディアや個人が使用

13)

ほとんどのメディアが政府が閣議決定する前に「大震災」という名称を使って報道している。それ以外の名称も「大地震」や「巨大地震」が使われているため、「地震」ではないと感じたメディアが多かったようだ。過去に淡路島の被害を無視した名称が使われた教訓からか、東北のみを表す名称は少なく、「東北・関東」や「東北沖」など広い範囲を指す名称が多い。もし「東北大震災」という名称が広く使われていたら、津波の被害を受けた茨城や千葉の住民が抗議していただろう。政府が「東日本大震災」の名称を決めたのは、メディアの間で徐々に名称が「東日本大震災」に統一されていった後のことだった。このことから「大震災」の名称は、マスメディアが付けた名称の中から国民に広く受け入れられているものを採用する傾向があると言える。

このことを考えると「関東大震災」という名称は、まだ被災者に寄り添う命名の仕方が出来ていなかったと感じる。「関東大震災」を引き起こした「関東大地震」は関東地方の他に静岡県、山梨県、長野県にも被害を出している。「関東大震災」は関東以外の被害を無視したような名称だが、抗議が起きた形跡がないのは「被災者目線」という視点がまだなかったからではないか。どちらかというと当時は被害を受けた範囲ではなく、震源や震央の地名を地震の名称にする傾向があったように感じる。命名の仕方や災害に対する考えが徐々に深まっていることが伺える。

3.当事者による命名

「東日本大震災」と「阪神・淡路大震災」は、マスメディアが考えた名称が災害の正式名称に使われた。しかし「大震災」と命名したにもかかわらず名称が定着しなかった例もある。「平成16年(2004年)新潟県中越地震」は気象庁が付けた名称で¹²⁾、ほとんどのメディアは「大震災」や「大地震」を使わなかった。しかし新潟県はこの地震による震災の呼称を「新潟県中越大地震」とし、同年11月29日より独自に使用している。¹⁴⁾新潟県のウェブサイトに掲載されている理由は以下のとおり。

「平成16年(2004年)新潟県中越地震」は、地震発生後に気象庁が命名した呼称です。中越地震は、避難者約10万人、住宅損壊約9万棟、被害額約3兆円を超える大規模災害であり、地域社会への深刻な打撃は「阪神・淡路大震災」にも匹敵することを県内外に広く理解いただくために、より実態に即した表現として「大震災」の呼称を使用します。

マスメディアや多くの国民が「大震災」だと感じていなくても、自分達は「大震災」だと考えている意思表示だと感じる。

また、2024年に起きた「能登半島地震」も気象庁が付けた名称¹⁵⁾を使うメディアが多い。しかし石川県金沢市に本社を置く地方紙「北國(ほっこく)新聞」は気象庁が付けた名称の他に「1.1大震災」¹⁶⁾、「能登大地震」¹⁷⁾、「石川大震災」¹⁸⁾という名称も使用している。

地震を経験した当事者が「大震災」だと感じた場合も「大震災」の名称が付けられることがある。しかし多くのメディアや国民、政府が「大震災」だと感じなければ、その名称が定着するとはない。では多くの人が「大震災」だと感じるのは一体どのような場合なのだろうか。

4.大震災の基準を探る

「大震災」と「地震」の違いを知るために、これまでに起きた三つの大震災と、同じ震度7相当で「大震災」という名称が付かなかった地震の被害の内容を比較する。

過去に起きた震度7相当の地震の被害

名称 (発生した年)	死者(人)	負傷者 (人)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	最大震度	マグニチュード (Mj)
関東大震災 (1923)	99,331 19)	103,733 19)	128,266 20)	126,233 20)	6 (当時最大)	8前後 19)
東日本大震災 (2011)	15,900	6,157	122,039	283,698	7	8.4 21)
阪神・淡路大震災 (1995)	6,434	43,792	104,906	144,274	7	7.3 22)
明治三陸地震 (1896)	21,959	4,398	1,844	-	強	8.2-8.5 23)
濃尾地震 (1891)	7,273	17,175	142,177	80,324	激烈 (当時最大)	8.0 24)
福井地震 (1948)	3,769	22,203	36,184	11,816	6 (当時最大)	7.1 25)
熊本地震 (2016)	276	2,809	8,667	34,719	7	7.3 26)
能登半島地震 (2024)	238	1,288	2,221	3,028	7	7.6 27)
新潟県中越地震 (2004)	68	4,814	3,174	13,810	7	6.8 28)

※明治三陸地震の半壊だけの数は不明。令和6年1月現在の数字

どの地震も震度7に近いが、こうして比較すると被害の内容に大きな差があることがわかる。「関東大震災」は当時の最大震度の震度6だったが、現在の震度7に相当する地域もあったと言われている。²⁹⁾「明治三陸沖地震」の震度階級「強」は現在の4~5強に相当する³⁰⁾が、被害は三つの大震災に匹敵する。「濃尾地震」の当時の震度階級「激烈」は「烈」(震度6相当)より特に強い時に使われた表現。³¹⁾「能登半島地震」の被害は2024年1月30日時点のものであり、今後増える可能性がある。震度やマグニチュードに大きな差がなくても、人的被害、住家被害に明らかに差が出ている。

被害の大きさは揺れの大きさだけでなく、状況にも左右される。「関東大震災」は、昼食時に起きたこと、台風が近づいていて風が強かったことから火災が発生し、甚大な被害が出たことは有名な話だ。「福井地震」は終戦から3年後に起きた地震で、福井空襲から復興する途中で起きた地震だった。それに加え、火災や水害も重なったため三つの大震災に匹敵する被害が出た。³²⁾「明治三陸地震」の死者数が多い理由は、この地震がゆっくりと動く地震だったからだと言われている。地震動の大きさの割に人間にはあまり大きく感じられない揺れだったため、危機感を感じにくかったそうだ。³³⁾

起きた場所、範囲も関係するだろう。「関東大震災」、「阪神・淡路大震災」は都市部で起きた地震で、人口や建物の数が多いので必然的に被害が大きくなる。「東日本大震災」は東北か

ら関東まで被害の範囲が他の地震と比べて広かった。震度やマグニチュードだけでは測れない事情がそれぞれの地震にあるのだ。

このことから揺れの大きさよりも被害の大きさの方が「大震災」の名称に影響していると考えられる。また「明治三陸地震」、「濃尾地震」の被害が三つの大震災に匹敵するにもかかわらず「大震災」と呼ばれていないことを考えると、「大震災」は「関東大震災」が起きた大正以降に生まれた近代的な概念なのではないか。

5.まとめ

大震災の名称や被害の内容を調べた結果、大震災には以下のような特徴があることがわかった。

- ①政府が閣議決定する「災害の名称」が付いている
- ②マスメディアが発案し国民に広く受け入れられている「災害の名称」が付いている
- ③関東大震災以降に起きている
- ④震度7相当である
- ⑤死者数**6,000人以上**、全壊数**10万棟以上**の被害が出ている

これらの条件が揃うと多くの人が「大震災」と感じる災害になる傾向がある。しかし、気象庁のようにこれらを災害の名称を付ける基準にしてしまうのは危険だと考えている。大震災は明確な基準がないからこそ、被災者の気持ちや国民の「イメージ」が反映されるものである。その人が大震災だと感じたら大震災と名付けたり、国民が大震災だと思わないなら政府も災害の名称を付けない。これに対して「死者6000人以上」のような基準を設けてしまうと、国民が受けた印象は「大震災」なのに、死者数が数人足りなかつたために「大震災」にならなかつたというようなことが起こる。これまでのよう�数字で明確な記録を取るのは気象庁が担当し、人の心が決める部分についてはある程度ぼかしておいた方がいいこともあるのではないか。

日本人の地震、災害に関する考え方は年々進化している。「関東大震災」から昨年で100年経ったが、その間に科学技術や心理学が進み、法律も変わって来ている。それによって「災害」の姿もどんどん変わっていくだろう。それに対応するために「自然現象の名称」と「災害の名称」が存在することは地震、災害をあらゆる面で捉え分析するために役立っていると感じた。

参考文献

- 1) 頗著な災害を起こした自然現象の名称について(2018年7月9日)、気象庁
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/meishou/meishou.html>
- 2) 地震の命名基準を教えてください。よくある質問集、地震について、気象庁
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/faq/faq7.html#18>
- 3)「気象庁「令和6年能登半島地震」と命名 石川県能登地方の地震」NHK NEWS WEB (2024年1月1日)
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240101/k10014305521000.html>
- 4)2011年3月11日の「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」は「東日本大震災」と同じですか？ 地震について よくある質問集 気象庁
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/faq/faq7.html#17>
- 5)“閣議”. 首相官邸.
<https://www.kantei.go.jp/jp/rekidai/1-2-5.html>
- 6)阪神・淡路大震災教訓情報資料集阪神・淡路大震災の概要 内閣府「防災情報のページ」
https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/hanshin_awaji/earthquake/
- 7)菅総理の演説・記者会見等 菅内閣総理大臣記者会見 平成23年4月1日(金)
<https://www.kantei.go.jp/jp/kan/statement/201104/01kaiken.html>
- 8)関東大震災100年企画展「震災からのあゆみ－未来へつなげる科学技術－」国立科学博物館
- 9)宇佐美龍夫「日本被害地震総覧－599-2012」東京大学出版会、2013年9月、p278
- 10)#名称 阪神・淡路大震災 Wikipedia
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%98%AA%E7%A5%9E%E3%83%BB%E6%B7%A1%E8%B7%AF%E5%A4%A7%E9%9C%87%E7%81%BD#%E5%90%8D%E7%A7%B0>
- 11)震災報道『阪神』淡路島では不評『朝日新聞』1995年1月28日付東京朝刊、29面
- 12)「ドキュメント希望新聞 阪神大震災と報道」p25
- 13)#名称 東日本大震災 Wikipedia
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9D%8B%E6%9C%AC%E5%AC%5A4%A7%E9%9C%87%E7%81%BD#%E5%90%8D%E7%A7%B0>
- 14)新潟県中越大震災関連情報:「新潟県中越大震災」の呼称について 新潟県庁
<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/kikitaisaku/1201626029355.html>
- 15)令和6年1月1日16時10分頃の石川県能登地方の地震について(第2報)気象庁
https://www.jma.go.jp/jma/press/2401/01b/202401011810_2.html
- 16)『北國新聞』2024年1月3日朝刊第12版一面1頁「大地震55人死亡 県内 志賀震度7 津波1.2メートル M7・6、14人重傷 輪島朝市周辺200棟焼く 1.1大震災」「「令和6年能登半島地震」と命名」北國新聞社
- 17)「社説 能登大地震 余震と「通電災害」に警戒を」『北國新聞』北國新聞社、2024年1月3日、朝刊第12版、2面。
- 18)「【能登半島地震】石川大震災、主な震度 | 社会 | 全国のニュース | 北國新聞」北國新聞 2024年1月2日
<https://www.hokkoku.co.jp/articles/-/1279925>
- 19)宇佐美龍夫「日本被害地震総覧－599-2012」東京大学出版会、2013年9月、p282
- 20)諸井孝文, 武村雅之「関東地震(1923年9月1日)による被害要因別死者数の推定」「日本地震工学会論文集」第4巻第4号、2004年、p21-45
- 21)「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の被害状況と警察措置」(プレスリリース)警察庁緊急災害警備本部、2023年3月10日。
<https://www.npa.go.jp/news/other/earthquake2011/pdf/higajyoukyou2023.pdf>
- 22)阪神・淡路大震災について (確定報) (PDF) - 消防庁
<https://www.fdma.go.jp/disaster/info/assets/post1.pdf>
- 23)#被害 明治三陸地震 Wikipedia
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%98%8E%E6%B2%BB%E4%B8%89%E9%99%B8%E5%9C%B0%E9%9C%87#%E8%A2%AB%E5%AE%B3>
- 24)宇佐美龍夫「新編日本被害地震総覧」東京大学出版会、1987
- 25)宇佐美龍夫「日本被害地震総覧－599-2012」東京大学出版会、2013年9月、p347

- 26)熊本県熊本地方を震源とする地震(第121報) (PDF) 消防庁
<https://www.fdma.go.jp/disaster/info/items/kumamoto.pdf>
- 27)「令和6年能登半島地震による被害及び消防機関等の対応状況(第59報)」消防庁災害対策本部
<https://www.fdma.go.jp/disaster/info/items/20240101notohanntoujishinn58.pdf>
- 28)平成16年(2004年)新潟県中越地震(確定報) - 消防庁 - WARPによるアーカイブ
<https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/9551459/www.fdma.go.jp/bn/data/010909231403014084.pdf>
- 29)1923年9月1日関東地震の関東地方における震度分布（武村「関東大震災 -大東京圏の揺れを知る」2003）
https://www.jishin.go.jp/main/chousa/04aug_sagami/f11.htm
- 30)#各地の震度 明治三陸地震 Wikipedia
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%98%8E%E6%B2%BB%E4%B8%89%E9%99%B8%E5%9C%B0%E9%9C%87#%E5%90%84%E5%9C%B0%E3%81%AE%E9%9C%87%E5%BA%A6>
- 31)#各地の震度 濃尾地震 Wikipedia
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%BF%83%E5%B0%BE%E5%9C%B0%E9%9C%87#%E5%90%84%E5%9C%B0%E3%81%AE%E9%9C%87%E5%BA%A6>
- 32)報告書 災害教訓の継承に関する専門調査会報告書 1948 福井地震 内閣府「防災情報のページ」
https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunnokeishou/rep/1948_fukui_jishin/index.html
- 33)土井恵治『地震のすべてがわかる本 発生のメカニズムから最先端の予測まで』成美堂出版、2005年7月